

インド NGO-JICA ジャパンデスク



ニュースレター

2010年9月号 ●

インド事務所よりナマステ！デリーは、長く続いたモンスーンがそろそろ終わり
そうな気配です。今月号は、草の根技術協力事業地訪問を中心にお届けします。



草の根技術協力事業地視察 インド福祉村協会～貧困層の健康のために

ウッタルプラデーシュ州クシナガルはブッダ入滅の地として広く知られており、仏教徒にとっての聖地のうちのひとつですが、この地で実施されてきた、3年間のJICA草の根技術協力事業が2010年8月31日を以って終了しました。

(特活) インド福祉村協会が支援するアーナンダ病院は、これまで医療にアクセスできなかった貧困層を対象とし、患者にとって負担の少ない価格で医療サービスを提供しています。アーナンダ病院の開院は12年前に遡ります。衛生環境が悪く、医療を受けられない人が数多く存在するインドの状況を改善するため、この地に病院を建設する計画が進みました。現在、JICA草の根技術協力事業で統括を努める大竹紘一氏が建設の現場監督として、インドの人たちと一緒に汗水を流して建てた病院は、今では一日に80～130名もの患者が診療に訪れる病院として地域に根付いています。



アーナンダ病院



病院での診療や運営を一手に引き受けるのが、この病院の唯一の医師であるグプタ先生です。グプタ先生は、アーナンダ病院の開院以来診療を行っており、貧困層の衛生環境改善に尽力されてきましたが、病院にやって来る患者の診断内容のほとんどは、衛生に関する知識があれば予防できる病気ばかりだそうです。

← 診察中のグプタ先生

JICAの草の根技術協力事業では、この地域での公衆衛生意識を高めるため、病院内での妊婦保健衛生教室を開始しました。週一回、病院の教育ホールで行われる教室には、妊婦だけではなく、産後の女性や彼女たちの母親も一緒に参加しています。手洗い等の基本的な内容だけではなく、栄養に関するアドバイスも受けられます。また、女性講師が地元の言葉で説明を行うので、参加者の女性たちはためらいなく質問をすることができます。

妊婦保健衛生教室の様子→



「インドの人の健康に役立つ働きをしたい」という日本人の発意によって12年前に始められた病院が、インドの中で経済的、社会的に取り残されている人々の健康に役立っているということは、同じ日本人として誇らしく感じます。今と同じように患者から多くの費用を取らないという方針を貫き、JICAの草の根技術協力事業で立ち上げられた妊婦保健衛生教室を継続するには、インド福祉村協会からのアーナンダ病院支援は不可欠です。貧困層への医療を提供する、この稀有な病院の存在が多くの人に伝わり、インド福祉村協会＝アーナンダ病院のサポーターが広がれば嬉しく思います。(釘田)

(特活) インド福祉村協会 <http://iwvs.web.infoseek.co.jp/>
当NGOデスクのホームページにて、インターネットメディア、
OneWorld South Asiaによる記事の和訳を掲載しております。
http://www.iicaindiaoffice.org/japan_ngo_media_i.htm

近隣村で住民の健康を
尋ねて歩く大竹氏→

